

## はじめに

農業・農村に「新しい風」が吹き始めています。少し前まで「農業は日本のお荷物」と言われ、逆風が吹き続けていたのが、風向きが少し変わったようです。しかし、新しく吹く風は農業の素晴らしさを大切にしてくれる風なのでしょうか？ この風が吹き始めたころから、強い違和感がありました。

「儲ける」とか「楽しんで」という言葉と一緒に吹く風は、私がやってきた農業とはかかわりのない風のように思えたのです。また、農山村の暮らしの厳しさは年を追うごとに増えています。外から来た人が農村は素晴らしいという目線と、村に住んでいる現実・将来への感じ方の違いに戸惑うこともよくあります。

新潟の山間地で暮らし、農業を始めて十五年の月日がたちました。案でも儲けているわけでもないけれど、つましく素敵な暮らしを、農業を中心に作り上げてきました。そのことをこの本で多くの人に伝えられたらと思います。

この二月にはパレスチナの農村を訪ねました。厳しい気候風土に加えてイスラエ

ル入植地からの執拗な攻撃によって、命が脅かされるほど農民の暮らしは厳しいものでした。それでもパレスチナの村人はオリブの木を植え、ヤギやヒツジを飼って、農業を続けていました。そんな農村の営みは、農業の持っているしたたかな強さを私にあらためて教えてくれたのです。

いま吹き始めた風が、農業や農村が持っている、したたかで命を慈しむ素晴らしい面に、息吹を吹き込み育む「風」になることを願います。また、この本がその手伝いをできれば望外の喜びです。

この本は新潟日報事業社の佐藤大輔さんの心からの応援で、無事に出版することができました。また、就農前からその著作で私の新潟の農への思いを導いてくださった佐藤準二さんと一緒に本を書けたことは身に余る光栄です。そのほか多くの人の助けでこの本が出来上がりました。ここで感謝申し上げます。

二〇一〇年四月

百姓 天明伸浩

## 【目次】

口絵「川谷の四季」

はじめに …… 3ページ

### 第I部

星の谷の軌跡 — 限界集落の棚田から (天明伸浩著)

1 農との出会い …… 10ページ

2 就農への道 …… 33ページ

3 私の仕事場 営農の実際 …… 55ページ

4 村に溶け込む 生活の実際 …… 77ページ

5 農で描く私の夢 …… 95ページ

コラム「もう一つの就農物語 — 天明香織さんから見た新規就農」 …… 110ページ  
新潟日報夕刊連載「星降る山里から 上越発イターン農家日記」 …… 116ページ

## 資料編①

- セルフチェック「農のある暮らしを始めたい。ホントに私は就農できる？」 …… 124ページ  
就農イメージと対応方向 …… 125ページ  
就農までの一般的な流れ …… 126ページ  
新規就農者（新規参入者）の就農実態に関する調査結果 …… 128ページ  
全国農業新聞より「意外と知られていない農地」 …… 130ページ  
新潟日報より「廃れる農地」 …… 135ページ  
コラム「どこで、何を作るのか 就農活動はじめの一步」 …… 138ページ

## 第Ⅱ部

### 農業立て直しの第一歩は人づくりにあり―コメ王国新潟からの報告（佐藤準二著）

- プロローグ「3K構造」にあえぐ日本農業をどうする …… 148ページ  
▼津南町  
自立を目指すニューファーマーをこの地に …… 158ページ  
新たな人生は「7反」から始まった …… 170ページ  
▼朝日池総合農場  
農業の素晴らしさが分かる人を育てたい …… 180ページ

- やっとかメづくりの入り口に立てた …… 193ページ  
▼エーエフカガヤキ  
野球チームのような農業を目指して …… 200ページ  
農業がこれほど面白い仕事とは …… 213ページ  
▼神林カントリー農園  
地域とともに生き、地域とともに伸びる …… 222ページ  
仕事はコメづくりにとどまらず …… 235ページ

## 資料編②

- 新潟県の主要作物の生産概況 …… 244ページ  
2006年▼2012年 いがた農林水産ビジョン …… 246ページ  
新潟県における新規就農者数の年次推移 …… 247ページ  
新潟県の主な作目における10a当たりの経営試算 …… 248ページ  
新潟県で受けられる新規就農者への支援制度 …… 250ページ  
コラム「就農奮闘記をブログで発信―新潟市の農業モニター制度」 …… 252ページ

おわりに …… 254ページ

〈参考〉全国の新規就農者数  
農林水産省「平成20年新規就農者調査結果の概要」より

2008年（平成20年）の調査結果を見ると、全国の新規就農者の数は6万人となっています（2006年＝8万1,030人、2007年＝7万3,460人）。

「意外と多いな」と思う方がいるかもしれません。しかし、この数字を少し分解して見ると、ちょっと違った現実が見えてきます。

まずは年齢別ですが、39歳以下の新規就農者は1万4,430人（24.1%）、40～59歳が1万7,760人（40歳代：5,410人、50歳代：1万2,350人、合計29.6%）、60歳以上が2万7,800人（46.3%）となっています。

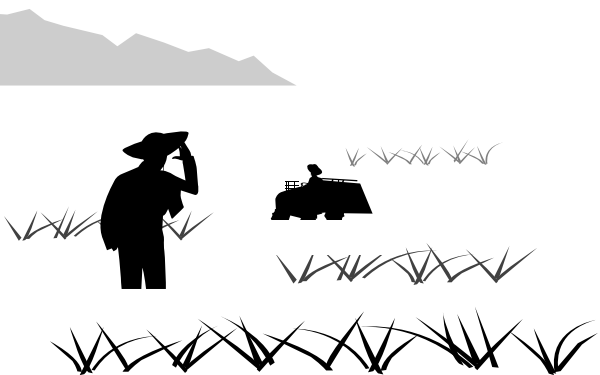
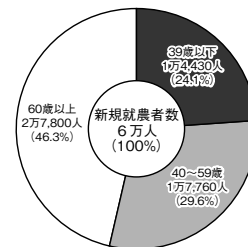
この6万人の新規就農者を「①自営農業就農者＝農家世帯員」「②雇用就農者＝法人などへの常時雇用」「③新規参入者＝土地や資金を独自調達し、新たに農業経営を開始」に細分化すると、さらに実態が明らかになってきます。

①の自営農業就農者は4万9,640人。そのうち学生から自営農業者となった新規学卒就農者は1,940人。逆に60歳以上が2万6,710人と、全体の50%以上を占めています。

②の雇用就農者は8,400人。39歳以下が5,530人で全体の約66%を占めています。また、8,400人のうち、約83%の6,980人が非農家出身となっています。

①と②以外が③の新規参入者に当たります。1,960人で新規就農者全体の3%強。内訳は39歳以下が580人、40～59歳が800人、60歳以上が580人となっています。

年齢別新規就農者数



# 1 農との出会い

↓はじめまして

ブナの森と棚田が広がる川谷集落。

木々が芽吹き「命」の躍動を感じる春。夏には蛍が舞い、トンボが飛び交います。秋になると辺りの山は紅葉で艶やかに装い。冬には二メートルの雪が降り積もり、静寂が訪れます。

こんな素敵な四季の移ろいがある新潟の山里に妻と移住したのは一九九五年。大学院修了すぐでした。

「米を作って暮らしたい」

そんな強い思いをもって移り住みました。

それから十五年の月日が流れ、娘たち三人にも恵まれ五人家族になりました。



◀天明家です。右から妻の香織、三女のあかね、長女のなぎさ、私が抱っこしているのが次女のみさき

農家としては、必ず抜けた能力があるわけではありません。経営も栽培もほどほどです。

それでも、若い人が少なくなっていく過疎の山村で、「百姓」としてそこそこ幸せに暮らしています。

私のこれまでの暮らしが新たに農業に飛び込みたいと思っっているみんなへの応援になればと思います。

### ↓実家はごく普通のサラリーマン

父親は東京の大田区で植木職人、その後米屋を営んだ家の三男として一九三七年（昭和十二年）に生まれ、大学を卒業すると損害保険の代理店に入りました。そこで知り合った新潟県柏崎市出身の女性（母）と結婚。その時に大阪勤務になって、新婚生活を送っていました。

母親は柏崎の農村の長女として一九四一年（昭和十六年）に生まれ、商業高校を

卒業すると同時に叔母などを頼って上京。父と同じ保険の代理店で仕事をしていました。結婚を機に会社を辞めています。

そんな両親の次男として一九六九年四月、大阪で私は生まれました。一歳の誕生日には東京勤務となった父に連れられて、家族四人で父の実家のそばに引っ越しをし、その後は高校卒業まで東京で育ちました。

ごく普通のサラリーマンの家庭で育った私が、二十五歳の時に新潟の山奥に移り住み百姓の生活を始めたのです。

### ↓農業の原体験

五歳になると家から歩いてほどちかい場所にある「こひつじ幼稚園」に通いました。当時の行動範囲は狭く、幼稚園や家の周りです。その中には田んぼや畑はほとんどありませんでした。目に入るのは家などの建物と小さな庭。典型的な住宅街です。

幼稚園の思い出に、遠足で行った「サツマイモ掘り」があります。畑の無い環境